

英語文学の指導における文学的な読みを促す発問の考案

Designing Questions to Encourage Literary Reading in the Teaching of English Literature

奥村直史* 田中武夫*
OKUMURA Naofumi TANAKA Takeo

要約：これまで、筆者は大学における英米文学の授業で、アメリカ文学を中心に作品研究を行ってきたが、英語文学における初歩的な学生にとって導入となるような文学的な読みの指導に関する具体的な方法を十分に検討することはなかった。英語教員を目指す大学生の文学的テキストに対する読みを育成する導入指導として、どのような指導が効果的かを考察するにあたり、文学的テキストのどこに学生の意識を向けて指導を行えばよいのかについて、とくに教師の発問に焦点を絞って検討してみることは価値があるものと思われる。本論の目的は、中学校の検定教科書に収録された文学的教材を使って、将来英語の教員となることを目指す大学生の文学的テキストに対する読みを促す発問を考案することにある。

キーワード：文学的テキスト、発問、文学的な読み

I はじめに

これまで、第一筆者は、教員養成系の大学における英米文学の授業で、20世紀のアメリカ文学、特にアーネスト・ヘミングウェイの作品研究を扱ってきた。しかし、平成31年度に文部科学省により教員養成大学における英語コアカリキュラムが制定され、英語の教員免許状取得に必要とされる教科に関する専門的事項「英語文学」を担当するにあたり、今まで以上に英語教育と英語文学研究の関わり方を意識するようになった。具体的には、大学で学ぶ「英語文学」の科目が、実際に学生が教員になったときにどのように活かせるか、応用できるかを考えるようになった。

中学・高校の英語教科書には、英米の小説を原作とした文学的要素が含まれた英文で、学習指導要領に沿って語彙や構文を統制し、分量も適度に調節された読み物教材が収録されている。そのような教材を用いて文学作品を読む、解釈する方法を将来英語の教員になる学生に指導すれば、新学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」を提供する教員の育成に役立つのではないかと考えるに至った。

そこで、まずは中学校の英語教科書に掲載されている短編小説を原作とする読み物教材を取り上げ、英語の教員を目指す学生を対象とする入門授業で、実際文学作品を読むとはどのような行為なのかを解説した。そのときの授業の解説をもとにして、「中学校英語教科書収録の文学教材の読み方」として論文にまとめ（奥村、2020）、中学校の英語教科書に収録された文学教材の読み方についての一例を報告し、中学校教科書にある文学的なテキストであっても、文学的な読みを指導できる箇所があることを示した。

また、奥村（2021）は、英語で書かれた文学的テキストの読み方を指導する大学授業における指導実践を報告し、文学的テキストに対する学生の読みと認識がどのように変容するかについて調査

* 言語教育講座

した。その結果、指導した学生の質問紙の回答の分析をもとに、中学校検定教科書を用いて文学的テキストの読み方を指導したとしても、受講者全員ではないものの、文学的テキストに対する読みや認識に変容が見られる学生がいることを明らかにした。文学的テキストの読み方指導の導入の一つとして、中学校検定教科書収録の読み物教材は、学生の文学的な読みの起点を生み出すという意味で、可能性があることが示された。

文学教材の扱い方としては、『文学教材実践ハンドブック』（吉村・安田，2013）がある。このハンドブックは、大学生を対象とした文学作品の原作を扱っており、ある程度の語学力と専門的知識を備えた学生に応用的な力を付与するという点では具体的かつ刺激的な読み方の提示がなされているが、英語文学における初歩的な学生にとっての文学的な読みの導入となるような具体的な指導方法までは提示はされていない。中学、高校の教科書に収録される文学教材については、その有用性について論じたもの（田口，2015）や、原作と教科書収録の改編版との違いを考察したもの（田口，2016）、学校の英語教育における文学教材の教科書収録数の減少とその問題点を論じたもの（小澤・幡山，2010）などがある。いずれも中学や高校の教科書に収録された文学教材そのものについての論考ではあるが、それらの教材を使って文学的な読みを指導する方策までは具体的に提案されているわけではない。

そこで、英語教員を目指す大学生の文学的テキストに対する読みを育成する指導の導入として、どのような指導が効果的かを考察するにあたり、文学的テキストのどこに学生の意識を向けて指導を行えばよいのか、とくに、教師の発問に焦点を絞って検討してみることは価値があるものと思われる。本論の目的は、将来英語の教員となることを目指す大学生の文学的テキストに対する読みを促す指導を支えるために有効と考えられる教師の発問を考案することにある。

II 文学的テキストにおける発問について

文学作品は作家のメッセージが込められたものであり、また作家の意図を離れて多様な読み方や解釈を可能とする深い内容を持つことが特徴とされる。先に述べたとおり中学・高校の英語教科書に収録された読み物教材は、学習指導要領に沿って語彙や構文を統制し、分量も適度に調節されたものではあるが、英米の小説を原作としており文学的要素が多く含まれている。このような文学的テキストを教材とすることは、生徒が主体的にテキストと取り組み、読み方や解釈について意見交換し、それにより更にテキストの理解を深めることのできる、正に「主体的・対話的で深い学び」にふさわしいと考えられる。

現在、中学・高校の英語検定教科書には文学的テキストが収録されてはいるものの、本課で扱われることはほとんどなく、夏休みの自主学習課題など付録的な扱いとなっている。しかし、現場で英語を教える中学、高校教員の8割以上が文学的教材に肯定的意見を持っていることが報告されている（小澤・幡山，2010）。それにもかかわらず、文学的テキストを用いてどのように指導したらよいのかを提案する論考は今までのところなされてはいない。大学生を対象とし、教科書に収録された文学的テキストを使った指導において、どのような問いを学生に投げかければ、文学的テキストの読みが深まるのかと同時に、文学的な読みの育成を図ることが可能なのかを探究することは価値があるものと考えられる。

田中・田中（2009，2018）は、中学および高等学校における英語授業での効果的なリーディング指導を考える糸口として、生徒に投げかける教師の発問を、事実発問、推論発問、評価発問の3つに分類したが、本論では、文学的テキストの読みを支える発問として事実発問と推論発問を考え、評価発問とは別の文学的発問を提案する。事実発問とは、英文テキスト上に直接書かれた情報を読

み取らせる問いであり、推論発問とは、テキスト上には直接示されていない内容をテキスト情報と読者の背景知識から推測させる問いである。文学的発問は、英文テキスト中の言葉の多義性、物語の設定、象徴、名前、反復される語や行為、共通する属性、関連付けなど、作家の作風や表現技巧が分かる英語表現に焦点を当て、学生に文学的な読みを促す問いを指すこととする。文学的な読みの指導とは、英文テキスト上の一語一義的な理解を超えて、テキストを訳すだけでは隠れてしまい見えてこないことばの働き、つまり、テキストのなかでことばが互いにどのように繋がりあって働いているのかを考えさせるような指導である。この文学的発問を起点に、学生から出てきた意見をもとに指導者の解釈を学生に提示する形で指導を行うことが可能となるものと考えられる。

とくに、初歩レベルの学生に向けた文学的な読みの指導において、このような異なるタイプの発問を連携させて有効に活用することは重要であると考えられる。文学的発問が文学的テキストの読みにおける鍵となることは予想ができるが、初歩レベルの学生が、文学的教材のテキストの正確な読解を促す事実発問および推論発問も欠かすことはできない。以下では、文学的テキストを具体的に取上げ、どのような発問が考えられるかを提案することにする。

Ⅲ 文学的テキストの発問の考案

本論で言う文学的テキストとは、英米の小説を原作とした文学的要素が含まれた英文で、学習指導要領に沿って語彙や構文を統制し、分量も適度に調節されたうえで中学校・高校の英語教科書に収録されている物語文をさす。対象とする英語の文学的テキストは、O. Henry 作の“A Retrieved Reformation”を改編した“Jimmy Valentine”（平成24年度版中学校検定教科書 *New Crown English Series* 3に掲載）を使用した。“A Retrieved Reformation”は1903年に発表された短編で、金庫破りの主人公が改心して良い人間に生まれ変わる物語である。O. Henry 作品に共通する、ストーリー展開が明確で最後に落ちがくる読みやすさと、同時に、作家の作風や表現技巧も随所に見られる特徴があり、教科書用に改編されたものであっても文学的テキストの読みについて学生に指導するテキストとしては扱いやすいと判断した。

本論で考案する発問は、異なるタイプの発問を用いて、様々な角度から同じ教材の読みを支援するランウンド制の発問スタイルをとり、次のような段階を設けることにする。(1) 話の内容を正確に理解させるためのテキスト上に直接示されている内容を読み取らせる事実発問、(2) テキスト上の情報をもとに、テキストには直接示されていない内容を推測させる推論発問、(3) ことばの機能を読み取らせる文学的な読みを促す発問、の3つの段階である。このような異なるタイプの発問を効果的に配置することで、本文の読みを繰り返し動機づけることができるものと考えられる。

1. 事実発問について

事実発問とは、英文テキストに直接書かれた事実情報について尋ねる問いである。とくに、初歩レベルの学生にとっては、テキストの文字通りの意味を正確に理解する上では、事実情報の丁寧な確認が欠かせないものと思われる。本物語は大きく分けて3つのパートから成っており、物語の各パートの概要とそれらに対応する事実発問は、以下の通りである。なお、表1に示したのは、3つのパートごとの事実発問の具体例である。

パート1では、ジミーとスーザンの出会いが描かれる。刑務所から出所した金庫破りジミー・ヴァレンタインは、新たに住み始めたエルモアの町で、銀行家の娘スーザンと恋に落ち、ジミーは靴屋を始め、金庫破りから足を洗おうとする。このジミーとスーザンの出会いまでの内容理解に、問1から問8までの発問が対応する。

パート2では、スーザンの家族である少女の危機が描写される。ジミーはスーザンとともに、スーザンの父アダムズ氏の銀行に招かれるが、ジミーの釈放後に続いた金庫破りをジミーの仕業と疑う警察官ベン・プライスが銀行に現れる。そのとき、アダムズ家の少女が金庫に閉じ込められてしまう。誰もその金庫を開けることができず、スーザンはジミーに助けを求める。この少女の危機についての内容理解に、問9から問15までの発問が対応する。

パート3では、犯罪者であるジミーをベンが見逃すまでが描かれている。ジミーは、封印していた金庫破りの技を使う覚悟を決め少女を救出し、その後、ベンに近づき、自ら出頭を申し出る。しかし、ベンは彼を見逃しその場から立ち去っていく。このストーリーの最後の内容理解に、問16から問21までの発問が対応する。

表1. 事実発問の例（下線が引かれた記号の選択肢が正解）

Part 1	<p>1. ジミーはなぜ刑務所にいたのか。 (あ) 窃盗の罪 (い) 刑務官だった (う) 刑務所にいる人に会うため <u>(え)</u> 金庫破りをした罪</p> <p>2. ジミーが釈放されてすぐその地域で何があったか。 (あ) 暴力事件 <u>(い)</u> 金庫破り (う) 窃盗事件 (え) 誘拐事件</p> <p>3. 警察官のベンは何を疑ったか。 (あ) その事件は未解決であること (い) その事件はすでに解決していること <u>(う)</u> その事件はジミーの仕業であること (え) その事件そのものが嘘であること</p> <p>4. ジミーが引越し先に決めた町はどのような大きさか。 <u>(あ)</u> 小さい (い) 中くらい (う) 大きい (え) 巨大</p> <p>5. ある日ジミーはある女性に出会いどうなったか。 (あ) 姿を隠した (い) すぐに電話した <u>(う)</u> 新しい人生を始める決意をした (え) 元の町に帰った</p> <p>6. ジミーはその町で何をして過ごしていたか。 <u>(あ)</u> 靴屋を開いた (い) 弁当を売った (う) 金庫破りをしていた (え) 警官を装っていた</p> <p>7. その女性とジミーはどうなったか。 (あ) 友達のままでいた (い) 一度も会うことはなかった (う) 犬猿の仲になった <u>(え)</u> 一緒に生活が始まろうとしていた</p> <p>8. その女性はどういう女性か。 (あ) 銀行家の母 <u>(い)</u> 銀行家の娘 (う) 警官の娘 (え) 警官の母</p>
Part 2	<p>9. アダムズ氏は何を買ったか。 <u>(あ)</u> 新しい金庫 (い) 古い金庫 (う) 新しい銀行 (え) 古い銀行</p> <p>10. ある朝アダムズ氏は家族とジミーに何をさせたのか。 (あ) 別の銀行家を紹介した (い) 旅行に招待した (う) 夕食に招待した <u>(え)</u> 新しい金庫を見せた</p> <p>11. アダムズ家の2人の少女は何をしていたか。 <u>(あ)</u> 金庫の周りで遊んでいた (い) 夕食の準備をしていた (う) ジミーと遊んでいた (え) 金庫の写真をとっていた</p> <p>12. 誰がジミーを見つけたか。 (あ) 銀行家 <u>(い)</u> 警官 (う) 客 (え) 店員</p> <p>13. 突然その銀行で何が起こったか。 (あ) 少女が誘拐された (い) 少女がけがをした (う) 少女が金庫を壊した <u>(え)</u> 少女が金庫に閉じ込められた</p> <p>14. 金庫のドアを通して何が聞こえたか。 <u>(あ)</u> 子どもの声 (い) 金庫の音 (う) 町の音 (え) 大人の声</p> <p>15. アダムズ氏はすぐに金庫を開けることができたか。 (あ) できた <u>(い)</u> できなかった</p>

Part 3	16. ジミーはスーザンのために何をしたか。 (あ) 金庫を開けた (い) バラを買ってあげた (う) 金庫の会社に電話をした (え) 警察に知らせた
	17. スーザンはジミーに何を渡したか。 (あ) 鍵 (い) バラ (う) お金 (え) 手紙
	18. “His old skills” とは何を指すのか。 (あ) 金庫を開ける技 (い) 金庫を作る技 (う) 金庫を売る技 (え) 金庫を壊す技
	19. 少女はどうなったか。 (あ) 無事金庫から出ることができた (い) 金庫から出ることができなかった
	20. “His life in Elmore was finished.” とは何を意味するのか。 (あ) スーザンとの別れ (い) スーザンとの出会い (う) エルモアの町の衰退 (え) エルモアの町の再生
	21. ベンはジミーに何と伝え、その後どうしたのか。 (あ) 後から警察に来るように伝えて去って行った (い) おまえがジミーかと言って逮捕した (う) おまえのことをよく知っていると言って握手した (え) おまえを知らないと言って、去って行った

2. 推論発問について

英文テキストを豊かに読むためには、テキストに直接書かれている事実情報を理解するだけでは十分ではなく、文と文の間に不足している情報を補って理解を深めたり、読者のもつ既有知識をもとにしてテキスト情報をより具体的に理解したりするなどの行為が必要である。その際に有効に働くのが、推論発問である(田中・島田・紺渡, 2011)。

物語の主題や登場人物の心情などを理解するためには、テキストには表現されていない情報も推論することが重要となる。表2では、その推論を導く推論発問を3つのパートに分けて例示した。推論発問の問1から問7までは、ジミーとスーザンが出会うところまでのジミーの心情の変化について読者に考えさせる問いになっている。問8は、金庫に閉じ込められた少女を助けることで自分が犯罪者であることが明らかになってしまうという葛藤を表す部分について考えさせる問いになっている。問9から問11は、犯罪者として逮捕されることを覚悟するが、警察官に見逃されるまでのジミーの心情について考えさせる問いとなっている。これらの推論発問をもとに、物語の主人公であるジミーの心情の変化を考えさせることで、このストーリーの面白さに迫ることができるものと思われる。

表2. 推論発問の例

Part 1	1. 釈放されたジミーはどのような気持ちか。
	2. 金庫が破られたことから何が読み取れるか。
	3. エルモアの町に隠れたときのジミーはどのような気持ちか。
	4. ある女性に出会ったときのジミーはどのような気持ちか。
	5. “His life as a safebreaker was behind him.”はどのようなことを表しているか。
	6. “People in the town respected him.”からどのようなことが分かるか。
	7. スーザンとの生活が始まるときのジミーはどのような気持ちか。
Part 2	8. ベンがジミーを見つけたとき、ジミーはどのような気持ちか。
Part 3	9. ジミーがスーザンを見て“smiled sadly”の表情をしたとき、ジミーはどのような気持ちか。
	10. 金庫の扉を開けた後、警察官ベンに近づいていくジミーはどのような気持ちか。
	11. 警察官のベンにお前のことは知らないと言われたときのジミーはどのような気持ちか。

このように、テキスト上の事実情報を尋ねる事実発問をもとに、本文の情報から推論させる発問への段階を踏むことで、テキスト内容の理解に導くことができるものとする。

3. 文学的発問について

奥村（2020）では、中学校の英語検定教科書に掲載された文学的テキストを読むための着目点として、テキスト理解の基本となる言葉の「多義性」、「物語の設定」、「象徴」、「名前」、「反復される語や行為」、「共通する属性」などについて解説しながら、文学作品の解釈においてそれぞれの要素を関連付ける重要性を述べた。それらの着目点をもとに考案した発問の例は、表3の通りである。問1から5まではパート1について、問6はパート2について、問7, 8はパート3についての発問で、問9から12は物語全体に散りばめられた着目箇所に関わる発問である。また、最後の問13はそれまでの発問を関連付けて作品の解釈を導くためのものである。

表3. 文学的発問の例

Part 1	1. Jimmy Valentine という名前から想起される事柄はあるか。 2. Ben Price という名前から想起される事柄はあるか。 3. 反復して出てくる safe という単語から考えられる事柄はあるか。 4. shoe store という設定にどのような意味があるか。 5. Susan Adams という名前から想起される事柄はあるか。
Part 2	6. 反復して出てくる door という単語から考えられる事柄はあるか。
Part 3	7. rose が植物としてのバラ以外に意味する事柄はあるか。 8. 受け取ったバラを Jimmy がベストのポケットに入れるという設定にどのような意味があるか。
	9. 反復される safe と bank に共通する性質は何か。 10. prison, safe, bank に共通する性質は何か。 11. prison と safe に関して、反復される行為は何か。 12. Jimmy の動きに注目すると、どのような特徴が認められるか。 13. 上記の発問で出された事柄を関連付けるとどのようなことが言えそうか。

発問1, 2, 5は、「名前から連想される事柄」を考えさせる発問である。まずファーストネームはそれぞれありふれた名前、一方、ファミリーネームの“Valentine,” “Price,” “Adams” はそれぞれ目立つ名となっていることを確認したい。“Valentine”から連想されるのは「セント・バレンタインズデー」であろう。なぜその名がジミーのファミリーネームとなっているのかを考えることから主体的な学びが始まる。「セント・バレンタイン」について調べ、ジミーと関係する事柄がないか探ることとなる。“Price”から連想されるのは「値段/価値」といった意味である。なぜそのような名が付けられているのか、物語のなかでその意味が分かる場面がないか深い読みを追究することができるであろう。“Adams”から連想されるのは「アダムとイブ」のアダムであろう。バレンタイン同様アダムについても調べ、この物語との関連を探る。そして、なぜAdamではなくAdamsと“s”が付いているのかも考えることもできる。

発問3, 6は、「反復される語」に着目した発問である。“safe”は物語の表面上の意味としては名詞の「金庫」であるが、形容詞としては「安全な」の意味もある。文学作品は言葉の多義性を利用して解釈に幅を持たせることがある。「金庫/安全な」と金庫破り (safebreaker) だったジミーが足を洗い更生する変化と合わせて考えたい。“door”については、このことばのイメージについて考えたい。未来の扉や天国の扉などの表現にあるとおり、開かれることの期待や自由・解放に繋がるものといったイメージがある。物語の最終場面でジミーは“the front door”に向かって歩いているが、その扉は開かれるのかを関連付けて考えることができるであろう。

発問4, 8は、「物語の設定」について考える発問である。なぜ靴屋なのか。パン屋ではだめなの

だろうか、など靴屋である必然性を考える。まず靴というものの性質を改めて考えるところから始める。靴は二つで一組であり、英語の表現では“a pair of shoes”となる。また靴は歩くためのものでもある。これらのことは、これから一緒に人生を歩んでいこうとしているジミーとスーザンに関係しているのではないだろうか。次に、スーザンから受け取ったバラをジミーがベストのポケットに入れるという設定についてである。人は右利きが多いことから通常ベストのポケットは左胸のところにあり、左胸には心臓（ハート）がある。そこにスーザンから受け取ったバラを入れることに何か意味が出てくるのではないだろうか。

発問7は、設定であると同時に「象徴」についても考える発問である。なぜ“rose”なのか。バラの一般的なイメージは情熱や愛だろう。そのイメージだけでも十分なのだが、文学作品では象徴という技巧が使われることが多い。ここでは植物としてのバラが、それ以外のものを表しているかもしれない。一般的な英語学習辞典にもバラは「愛」や「秘密」の象徴であることが記述されている。バラが何を表すかを考えることにより、読みが深まることが期待できる。

ここまで発問1から8までについて見てきたが、問13にあるとおり、これらの発問を関連付けることにより、言葉がどのように働き、機能し合っているのかの理解を促す。「金庫破りの主人公が改心して良い人間に生まれ変わる物語」というあらすじを補強する読み方ができるのではないだろうか。人の安全な生活を壊してきたジミーが、スーザンの愛（バラ）を胸に抱きながらスーザンの家族を救い、そのことで秘密にしてきた犯罪者としての過去が明らかとなり、スーザンとの生活が無に帰すことになる。この姿に重なるのがセント・バレンタインの自己犠牲と無償の愛で、聖人のような人に生まれ変わったジミーの価値をベン・プライスが認めるといった読み方である。

発問9は、この物語全体にわたって反復されている語を見つけ、それらに共通する性質を捉える発問である。文学作品では繰り返し使用されることばがキーワードになっていることがある。“safe,” “bank,”に共通するのはどちらもお金を内部に閉じ込めておくという性質である。そこに発問10を加え、反復されていないが共通する性質について考える。ジミーが収監されていた“prison”であるが、その性質も閉じ込めることである。次に発問11では、先に着目した“prison”と“safe”に関し、どのような行為が繰り返されているかを辿ってみる。両者に共通して見られるのはジミーの釈放や金庫破り、金庫からの少女救出など、中にあるものの解放である。発問12は、客観的にジミーの動きを捉える発問である。ジミーは金庫を破り(break into)、エルモアに移動し(move to)、靴屋を開き(open)、そして少女が閉じ超えられた銀行の扉を開く(open)。これらのことから分かるのはジミーの特徴であり、ジミーは移動し開く人である。先ほどと同様に問13でこれらのことを関連付けるとどのようなことが言えるだろうか。善にしる悪にしる、閉じ込める扉は開かれるのがこの物語で繰り返されてきたパターンである。これらのことを考え合わせると、クライマックスとなるのは最終場面で、ジミーは銀行内部で正面の扉を前に立っている。移動して開く人であるジミーは、果たして目の前の扉を開くのだろうか。この物語はここで閉じられているので、その後のジミーについてはわからない。しかしそれ故に、このような手順で物語を読み、先のことについてディスカッションをすれば、「主体的・対話的で深い学び」に近づけるのではないだろうか。

IV さいごに

本論では、大学の英語文学を指導する授業のなかで、教師が学生に投げ掛ける発問に焦点をしばり、文学的な読みを促す発問を提案した。今後の課題としては、ここで提案した発問を活用した実践を行い、その実践を振り返ることで、文学的な読みの指導のあり方について発問をもとに考察することがあげられる。考案した発問を使った文学的テキストの指導にどのような効果が見られるのか、

とくに、学生の読みや認識にはどのような変容が見られるのかを明らかにする必要がある。文学的テキストの読みの指導によって学生の読み方に変容が見られ、その変容が起こるメカニズムを解明することは、文学的テキストの指導の充実化を促す鍵になるものとする。

引用文献

- 奥村直史. (2020). 「中学校英語教科書収録の文学教材の読み方」『山梨大学教育学部紀要』第30号, 9-15.
- 奥村直史. (2021). 「英語の文学的テキストに対する大学生の読みと認識の変容について」『中部地区英語教育学会紀要』50号, 193-200.
- 小澤浩美・幡山秀明. (2010). 「英語教育と文学的教材 [11] - 学習指導要領と文学的教材」『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』第33号, 315-320.
- 田口正一. (2016). 「英語教育における文学教材 - O. Henry の “A Retrieved Reformation” とそのリトールド版を中心に」『尚綱大学研究紀要人文・社会科学編』第48号, 71-84.
- 田口正一. (2017). 「中学校英語教科書のリーディング教材研究」『尚綱大学研究紀要人文・社会科学編』第49号, 1-14.
- 田中武夫・田中知聡. (2009). 『英語教師のための発問テクニック：英語授業を活性化するリーディング指導』大修館書店.
- 田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸. (2011). 『推論発問を取り入れた英語リーディング指導：深い読みを促す英語授業』東京：三省堂.
- 田中武夫・田中知聡. (2018). 『主体的・対話的で深い学びを実現する英語授業の発問づくり』東京：明治図書.
- 高橋貞夫・他. (2012). 『New Crown English Series 3』東京：三省堂.
- 吉村俊子・安田優（編著）. (2013). 『文学教材実践ハンドブック：英語教育を活性化する』東京：英宝社.